

令和3年度 第1回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 令和3年7月27日(火) 午後2時00分～午後3時30分
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 12名

○館出席者 5名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会

運営委員会 委員長代理 1名、委員 1名

【議 事】(1) 令和2年度事業報告

- ア 展覧会事業
- イ 芸術・教育普及事業
- ウ 施設の利用状況
- エ 作品収集状況

(2) 令和3年度事業計画

- ア 展覧会概要及びスケジュール
- イ 芸術・教育普及事業・施設維持管理業務

(3) その他

1. 開 会

館長より、令和3年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催する旨の挨拶。

2. 挨拶

運営委員会 委員長代理より、本協議会で忌憚なきご意見を伺いたい旨の挨拶。

3. 委員及び館職員の紹介と協議会成立について

館長より、令和2年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、新型コロナウイルス感染予防のために時間を出来るだけ短縮したい旨を説明、次に委員数14名中過半数の12名が出席となり、運営協議会規則第7条2項により本協議会が成立する旨を宣言し、議事に入った。

4. 議 事

(1) 令和2年度 事業報告

館長より、展覧会事業の概要や観覧者数、関連事業について報告。また、新型コロ

ナウウイルス感染予防のための臨時休館に関すること、観覧者に占める女性の割合が比較的低い特別展が散見された点についても説明があった。

次に、学芸主幹が各展覧会の詳細をコロナ禍での関連事業の展開を含めて報告した。

続いて、館長が教育普及事業や貸館事業、自主事業の説明を行い、新型コロナウイルスの影響を受けて中止や延期となったイベントについても説明。大人の寺子屋に関して学芸主幹が、飲食を伴うイベントのためコロナ対策をより慎重に行った旨の補足説明を行った。その後奈良原一高の作品収蔵について報告した。

最後に、館長が管理の目標達成度評価について、来館者アンケートの内容を含めて説明を行った。

会長 令和2年度事業についてご説明いただきましたが、委員の皆様からご質問やご意見はございますでしょうか。

委員 全体の観覧者数実績が目標の6割減ということですが、これは新型コロナウイルスの影響でどこの館も観覧者がかなり落ち込みましたので仕方のないことです。

「荒川好夫写真展／栗谷川健一写真展」はコロナによる長期休館明けでしたので、観覧者数が伸びず残念でした。

一方で「毛綱毅曠の建築脳」に関してですが、建築展は建築作品をそのまま持ってこれないということで尻込みしてしまうテーマなのですが、そこに果敢に取り組み見ごたえのある素晴らしい展覧会でした。

また、「木島誠悟 絵本のひみつ」や「池田良二版画展」、「大漁旗展」は釧路あるいは道東ゆかりの作家を取り上げるという地に足の着いた好企画だったと思います。

さて、先程の報告では観覧者の女性比率を出されていましたが、なぜこの数字を出されたのでしょうか。女性の観覧者を増やしたいのだとすれば、男性は少なくなるかもしれませんが、逆もまた然りです。こうした数字をどう分析し、どう生かしたいのかを示してくださるとよかったです。

館長 女性の比率につきましては、数年前から統計を取っておりました。ご家族連れあるいは男性の比率が高い展覧会がありましたことから、ならば実際女性はどのくらい観覧しているのかということで分けさせていただきました。

平成30年度の「倉本聰の仕事と点描画展」や昨年の「毛綱毅曠の建築脳展」、「荒川好夫写真展／栗谷川健一写真展」は数字から見ると男性向けの展覧会という印象でした。女性の比率は今後何かの判断材料になればと思ひまして、統計を取り続けている次第です。

会長 「ビーズのはなやぎ 刺繍の美」は個人的には大変面白い展覧会と思っておりますけれども、意外に観覧者数が伸びなかったということで、何か分析はされていますか。

学芸主幹 この展覧会は「荒川好夫写真展／栗谷川健一写真展」の時期に開催していただければ、観覧者数は違っていたなと感じておりました。逆に冬の寒い時期に釧路でこれだけの人数となったのは、健闘したのかなとも思います。

年度の展覧会の組み立てについては、どの時期に何を開催するかということ館の中でじっくり協議すべきだったと考えております。

会長 その他ご質問等はありませんか。では、議事の2つめである令和3年度の事業計画について、事務局よりご説明いただきます。

(2) 令和3年度 事業計画

館長が新型コロナウイルス感染予防のための臨時休館について説明、続いて学芸主幹より各展覧会についての説明があった。「安野モヨコ展」に関しては関連事業や地域のお店との相互サービス制度「もも得」についての説明がなされた。

次に教育事業に関して学芸主幹が引き続き説明、観覧者55万人記念に釧路鶴野支援学校の生徒へ芸術館特製ポストカードをプレゼントしたことについても触れた。

ホームページやSNSに関しては館長が説明した。

委員 先程のホームページの閲覧状況で、道外からの閲覧が非常に多いとの印象を受けましたが、道外からの来館者と関連付けた分析はされていますか。

館長 特に分析はしていませんが、旅行のための情報収集で閲覧しているのではと考えられます。それとすでに釧路に来られている方で天候不良で行くところがなかなか無いという場合にも、色々検索されている中で当館のホームページに行き着いたのではないかと感じます。

委員 分析された上で、何らかの作戦を立てて行かれるのがよろしいと思います。

委員 アンケート調査の中で展示作品の解説文が読みづらいというご意見がありました。それは文字を大きくしたり、手元のLEDライトで明るくしたりして、対策されれば良いのではと感じました。

もう一点、イベントは飲食とセットというイメージがありまして、お正月ならお節料理、クリスマスはローストチキンというように。例えば絵画展の時は一緒に生け花展も開催し、その横でお抹茶を頂けるようにするなどして観覧料には100円上乘せした上で、お抹茶席もありますよとご案内するとよろしいのではないのでしょうか。

学芸主幹

先程スライドでは写真で紹介しなかったのですが、「ボタニカルセット」という展覧会限定メニューをカフェで提供しました。館職員やボランティアスタッフが持っているウェッジウッドのワイルドストロベリーを持ち寄って飲み物と花の形のクッキーと一緒にメニュー提供したところ、好評をいただきました。安野モヨコ展の会期中も「リーフなひとときセット」という展覧会限定メニューを、飲み物の方は普段のカップなのですが、チョコを葉っぱの形をしたお皿で提供していますので、委員の皆様にもお帰り際に試して頂ければと思います。

飲食を伴うイベントにつきましては、今後も館内で協議し展開を続けていきたいと考えております。

委員

コロナ禍が長期に渡って続く中で、家に居て音楽を聴き、映画を鑑賞するということが当たり前になってきました。生の芸術を体験するということの素晴らしさをもう一度思い出してもらえるような施策はありますか。

会長

舞台に携わっておられる委員からもお話を伺いたいです。

委員

公演を配信でみて頂くという方法も確かにあります。でもやはり生で見えて頂くことによって舞台の魅力を発信できると思うので、これからどう助走をつけていくのかが課題だと感じております。

さてコロナ禍より前の協議会で、これからはSNSでの情報発信が重要と発言させて頂きましたが、まさに今その努力をされていると感じます。さらに展覧会やイベントに付加価値を付けながら、アートに親しみを持っていただけるような環境を取り戻そうという熱意は今日の報告でかなり伝わりました。

最後に、今年度は指定管理の4年間の最終年度ですので、これまでの振り返りや次の目標をお聞かせ願えれば、我々としてもバックアップする態勢が出来てくると思います。

館長

SNS等での情報発信をどう拡大していくかというのはこれからも続

く課題であると感じています。もう一つはスマートフォンやパソコンでもそこに行くという意識がないと館のページまでたどり着かないということです。わかりやすく、そして足を運びたいと思って頂けるような館とは何だろうということを常に念頭に置きながら運営していきたいと考えております。

また、指定管理期間が来年3月までということで一旦区切られます。年内には道の方から公募があると思いますが、色々な取り組みがその時々によって若干変化していくと考えられますし、今の形が決してベストでもベターでもないと感じておりますので、次の管理者が様々な面で再構築していく中で、新しい芸術館の姿が出来上がっていくのではないのでしょうか。

委員

先程のアンケートの内容紹介がありましたが、その意見にどう対応するのかというフィードバックをした方が良いと思います。(道立)近代美術館では、今年度からアンケートに対して今後こうします、あるいは対処できかねますという風に、説明も付けて掲示することにしました。全部のアンケートに回答する必要はないと思いますので、掲示する場所を作られてはどうですか。

それから、昨年度の出前講座は非常に申し込みが少なかったということですが、出前講座は出張アート教室と違って、作品を持って行かずに学芸員がパワーポイントで説明する事業ですので、コロナ禍が治まった後もリモートを活用していった方が良いと思います。道東の遠隔地の学校にアピールしていったのでしょうか。

館長

アンケートをフィードバックした方が良いとのご意見ですが、これは何らかの形で「見える化」をしていかなければならないと考えております。

次に、出前講座についてですが、リモートで出来ますということも含めて早いうちに広報しておりましたが、まだまだ周知にいたっていないと感じますので、方策を考えて参りたいです。

学芸主幹

オンラインにつきましては、今年2月に弟子屈高校の方から職場説明会をZOOMでして欲しいという依頼があり、機材を用意して実施しました。それ以来ホームページの「教員の皆様へ」という箇所には、オンライン授業も対応可能ですので、是非お申し込み下さいと表記してアピールしているところです。

出前講座が少なかったというのは、学校のスケジュール自体が新

型コロナウィルスの影響で詰まってしまったというのが一番大きいのかなと思いますが、今年はずでに白糠養護学校より申し込みがあり、道立近代美術館から「鳥獣人物戯画」の複製をお借りして11月末に実際に持参して授業をする予定が入っております。

出張アート教室の方は、当館のコレクションをトラックに積んで持っていくという授業でして、これは年間2校分の予算が付いているわけですが、現在12校くらいから要望が来ております。こちらはどうしても遠隔地が優先されますので、釧路市内の漏れた学校につきましては、出前講座で対応するという事も出来るのではないかと考えております。

会長

その他いかがでしょうか。それでは私から展覧会の中身についてなのですが、現在開催されている「安野モヨコ展」はオープニングの時に拝見しました。性的な表現の部分があって、子どもに見せるには刺激が強いかと個人的には思いました。学校の子どもたちが安心して見られるようにして頂けるとありがたいです。

次に、秋に開催される「羽生輝展」ですが、地元で有名な作家さんの展覧会で観覧者がどれだけ入るのかという試金石になり得るので、期待しております。

最後その他について事務局からお願いします。

(3) その他

本協議会議事録のホームページでの公開について館長が出席委員に伺い、了承された。

運営委員長代理より、新型コロナウイルスの影響で困難な状況が続くが、昨年賛否両論のあった「Go To トラベル」が再開されれば、またそれに向けた施策を展開していかなければならない、また、SNSでの発信等で行政とも連携しながら運営していきたい旨の挨拶があった。

館長より挨拶があり、北海道立釧路芸術館令和3年度第1回運営協議会は閉会した。